

報告 3：任哲（アジア経済研究所）・謝志海（共愛学園前橋国際大学）

「都市の境界と地下鉄－政府主導の都市化をいかに理解するか－」

伝統的な意味で、都市は農村部に囲まれた限られた区域であり、都市間の境界も農村地域の存在により分かりやすい。しかし、都市化が進むと、農村部は都市に吸収され、都市の境界を示すものも消え去る。一方で、中国のように、政府が主導する都市化は都市間の境界をより明確にする傾向を見せる。その背後には、都市化の恩恵を域内のものにし、境界の外へスピルオーバーすることを阻止する力が働く。ところが、グローバリゼーションの進展により、今日の都市政府は従来の都市問題だけではなく、新たな課題－すなわち都市間の競争に直面するようになっている。競争を勝ち抜くために、都市政府はいかにして魅力的な空間を作り上げるかに苦心する。さらに、一都市だけではなく、周辺都市を巻き込んだ都市群（Megacity）を形成し、グローバリゼーションに立ち向かう必要がある。都市の壁を保つのか、それとも取り壊すのか。この報告では、地下鉄事業を手掛かりに、中国の都市化の政治力学を探りたい。